

森林ガイド事業を通じた国有 林のPR活動 (962)

五城目署総務係長 越 高 春 雄

1・はじめに

近年、森林に対する国民の関心の高まりとともに、その要請も多様化しつつあります。

このような現状の中で、国有林の管理経営を付託されている営林署が、日頃、どのような考え方にたち、どのような仕事を行っているのか等について、地域の人々に正しく理解していただくことが重要となっています。

このため、当署では森林ガイド事業の実施、地域で開催する行事への参加、地域への広報誌発行などを通じて、国有林のPR活動に取り組んできました。

その中であって、平成3年度から実施した森林ガイド事業は、当初19名の参加者でスタートしましたが、事業の内容、募集方法に工夫を図りながら進めてきた結果、平成5年度は春秋あわせて66名の参加者を見るなど年々拡大の傾向にあり、参加者からも大変好評を得ています。

今回の発表は、当署の森林ガイド事業への取組みの成果を、これまでに参加していただいた方々のアンケートをもとに検証し、国有林のPR活動の成果と今後の取組みについて発表するものです。

2・森林ガイド事業の実施状況

実施年	ツアー	月日(曜日)	主 な 実 施 内 容	参加者
H. 3	紅葉	10.27(日)	森林浴、森林教室	19人
H. 4	新緑	6. 7(日)	森林浴、森林教室	24
	紅葉	10.23(土)	森林浴、森林教室、伐採現場、 製材工場見学	33
H. 5	新緑	5.30(日)	森林浴、森林教室、山菜採り	29
	紅葉	10.24(日)	森林浴、森林教室、貯木場見学	37

当署でガイド事業を実施するに当たっては、当署管内がヤマビルの生息地として名が通っていたこと、また、これといった名の知れた景勝地もなかったことから、どのような内容で実施するか、どのような方法で応募者を募るか大変苦労したところです。

コースについては、現場に詳しい署員の意見を参考にしながら現地踏査を行い新緑と紅葉の美しい臼内溪谷及び光のサンマを選びました。

応募方法について、最初の実施時は町の広報紙に記事を依頼し参加者を募集したのですが、応募者が極端に少なく、知人、職員の家族等に呼びかけて19名でスタートしました。このことから、応募方法を検討した結果、ヤマビルの取材等で親交のある「秋田さきがけ新報社」に、ガイド事業についての記事を依頼したところ快諾をいただき、掲載してもらうことにしました。この効果は大きく、掲載翌日には募集定員に達するなど大きな成果を挙げており、毎回一部の申込者をお断りしている状況にあります。

参加者の集散場所について、当初は営林署前としたのですが、JRやバスで営林署まで来る方があったことから、JRの発着時刻に合わせて、八郎潟駅前に変更したところ、秋田市方面からの参加者が増え、さらに遠くは象潟町からの参加者もありました。

事業の実施内容について、最初は森林浴、森林教室を主としてきましたが更に内容の充実を図ることと、潜在応募者の掘り起しのネライから、伐採現場の見学、製材工場の見学、山菜採り、貯木場の見学、などを組み合わせて実施した結果応募者は確実に増えてきています。

3・アンケート結果のまとめ

これまで当署の森林ガイド事業に参加した延べ142名のうち複数参加者を除く92名の方々にアンケートをお願いして85名の回答がありました。結果は別紙に示したとおりで、以下のように集約されます。

(1)参加者の居住地、男女別、年齢構成につて

参加者の半数は秋田市からで、男女別ではほぼ同比率となっており50代以上が80%をしめています。

(2)参加者の動機について

参加の動機については「森林、自然が好きだ」が全体の80%以上となっており、最近の森林、自然に対する関心の高さが窺われる結果となっています。

(3)ツアーの実施方法および内容について

(7) ツアーの実施方法については80%以上が「現状で良い」としていますが、募集方法については全体の30%近くが、「TV、ラジオ等で周知させるべき」となっています。また、バスの発着地について20%近くの人が秋田市を望んでいます。

(1) ツアーの内容については80%近い人の好評を得ていますが、「もの足りない、もっと中身を工夫すべき」の声も8%~21%となっています。

(4) 営林署について

営林署の行っている仕事については「ツアーに参加して初めて知った」人が56%を占めており、「どんな事をしているのか分からない」人も4%いました。営林署のイメージについては「良くやっていると思う」が85%を占め、「マアマアやっている」を含めて99%の評価を得ています。ツアーの参加前と後での営林署のイメージについては「良くなった」が69%で、「変わらない」が31%となっています。

(5) 今後について

ツアーの継続については回答者の全員が望んでおり、また、「今後のツアーも参加したい」という回答が100%となっています。

4・ガイド事業の成果と問題点

(1) 成果について

(7) アンケート結果からガイド事業については大半の参加者から好評の回答を得ており、今後の継続に対する期待も大きいこと。

(1) 写真入りで大きく報道されたことから、案内コースが一躍景勝地として脚光を浴びたこと。

(ウ) ガイド事業は署、現場を含めた署員の応援体制で実施しているが、一般の方々と接する機会を通じて営林署のすがたを再認識するなど署員の意識改革につながったこと。

(2) 問題点について

(7) 当署管内に生息するヤマヒルの問題で、参加者の吸血被害を防止する対策が必要となっていること。(現在まで2名が吸血被害をうけている)

(1) コース、内容など工夫を凝らしながら実施しているが、複数参加者も多いため回数を重ねるに従って同コースではマンネリ化する傾向にあること。

(ウ) 車両の効率的配置により、大型バスを廃車したことから他署の大型バスを使用しているが、開催日が限定されるなどの問題があること。

(エ) 現在、参加者の案内は当署職員で工夫をしながら実施していますが、森林、林業を正しく理解していただくために専門的なインストラクターを養成する必要があること。

5・国有林のPR活動の成果と問題点

(1)成果について

(ア) 開催時およびアンケートの意見、要望の中で国有林に対する理解と応援の声が多く国有林の理解者が増えたこと。

(イ) 参加者から分収育林のオーナーが誕生したこと。

(2)問題点について

(ア) 参加者の大半が中高年層のため、若い世代へのPRが困難であること。

6・森林ガイド事業以外の国有林のPR活動

行事名	実施月日	内 容
署報(外部向 (新年号))	11.5.1	国有林の機能類型区分による施業方法、分収育林のPR等掲載し、管内の町村、林業団体など配布
五城目町植樹祭	11.5.5.27	国有林内に全町の250名が出席して植樹祭及び山火事警防懇談会の実施
森林教室	11.5.6.8	五城目町立の杉沢中学校の生徒を対象に実施
きゃどっこ祭	11.5.8.15	五城目町主催の行事に木工教室のコーナーを設けて参加
体験林業	11.5.11.3	住民団体が国有林内にブナを植栽、参加者に植樹の指導をするとともに国有林の施業についてPR
産業祭に参加	11.5.11 3~7	五城目町の産業祭に参加、営林署コーナーを設けてビデオによる国有林のPR、木工品の即売
林政懇談会	11.5.11.4	五城目町の産業祭行事の一環として県、町、営林署の行政側と地元林業に関係する代表者と懇談会を実施
学校分収造林	11.5. 11.16	井川町(井川中学校)と皇太子御成婚記念分収造林を設定、現地で植樹など指導

7・まとめ

(1) 今回のアンケート結果から、当署のガイド事業に今後とも参加したいという固定客が多かったことから、コースの再検討を含めて、内容の充実を図る必要があります。また、秋田市からの参加者が多いこと、秋田市からの送迎を希望する声もあることなどから秋田営林署との連携の下での実施も検討すべきと考えます。さらに、ガイド事業が国有林のPRのみならず、所在町村のPRにもつながっていることから地元町村との共催も検討し、見学コースに町の施設を加えるなど、内容の充実を図っていくことも必要かと考えます。

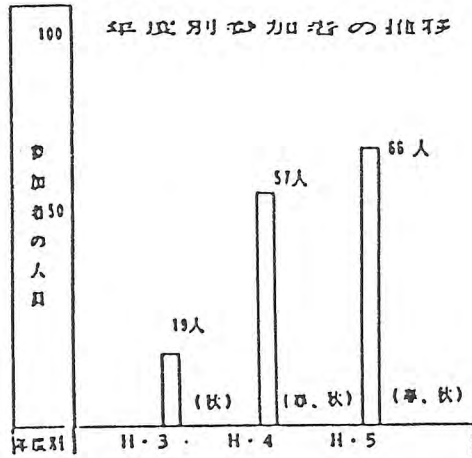
(2) 国有林PR活動の今後の方向

今回のアンケート調査を実施してその回収率が92%と非常に高かったこと、ツアー参加後、営林署に対するイメージが「良くなった」という方が多いことから、森林ガイド事業が国有林PR活動に大きな成果をあげていることが分かりました。このことから、署においても専門的なインストラクターの養成や、コース内容の充実に努め、中高年層のみならず若い世代にも参加して頂けるような努力が必要と考えます。

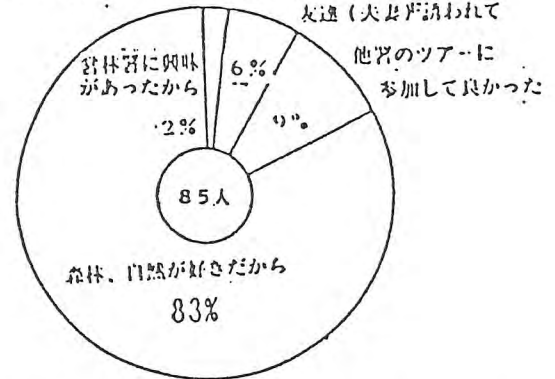
ガイド事業は、営林署から一般の方々へ向けた発信の場として大変重要であることが分かりました。地域行事への参加に際しても、受身の姿勢でなく、前向きに署のすがたをアピールしていくことが重要であると考えます。

今後とも、開かれた営林署を目指しながら地域の中に根ざした国有林のPR活動に努めてまいりたいと考えています。

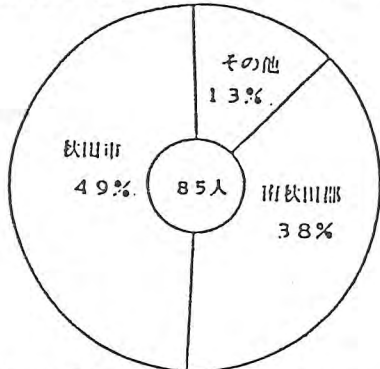
別紙



参加者の動機について

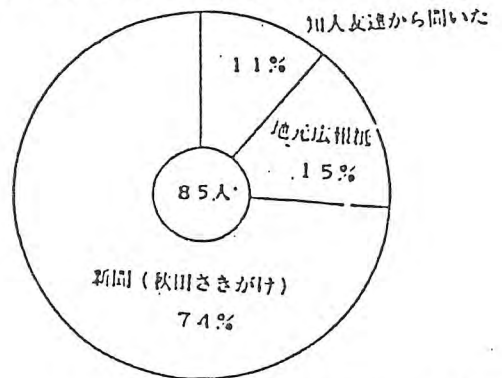


参加者の居住地域について



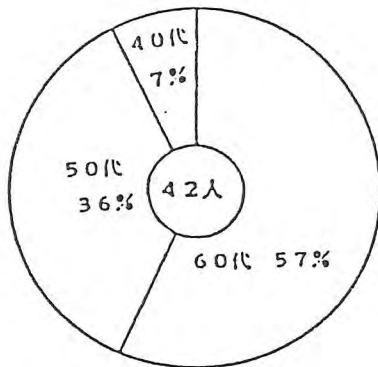
ツアーの実行方法について

① ツアーをどのようにして知りましたか

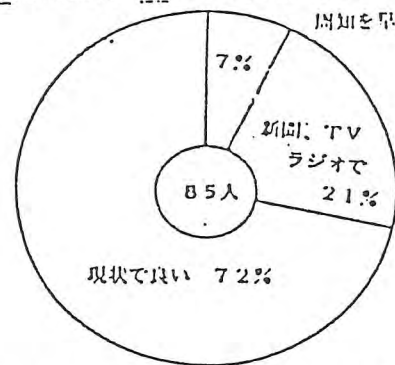


男女別と居住地域について

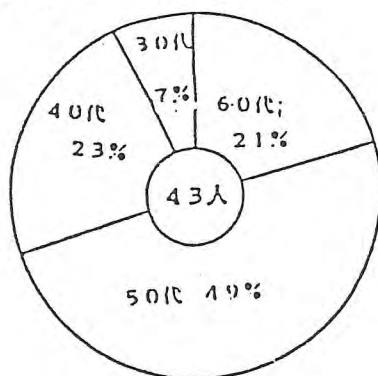
① 男性の年齢について



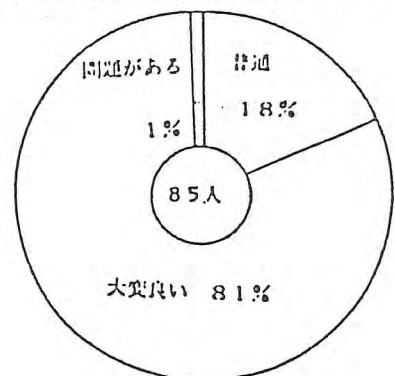
② 今後募集の方法としてどのような形を希望されますか



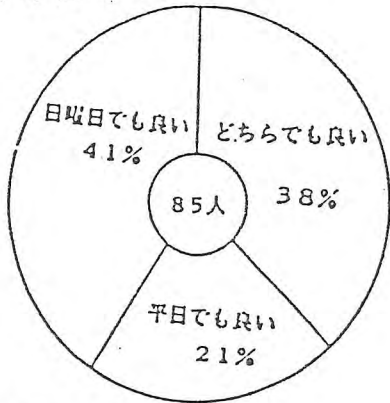
② 女性の年齢について



③ ツアー受付時の営林署員の対応について

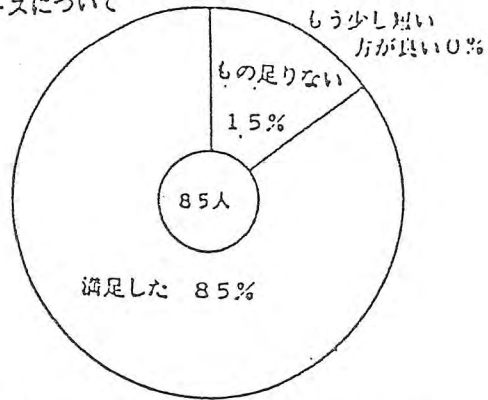


④ 開催日時について

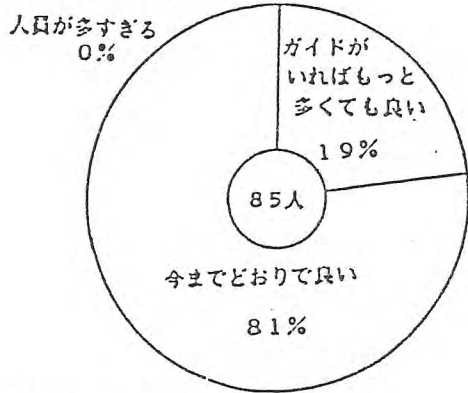


ツアーの内容について

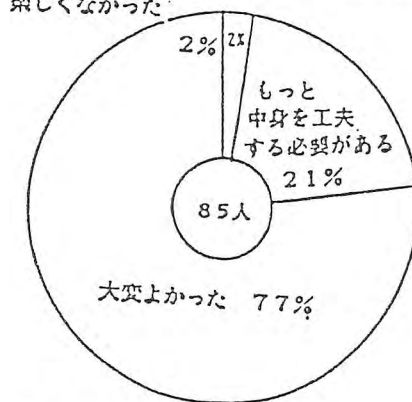
① コースについて



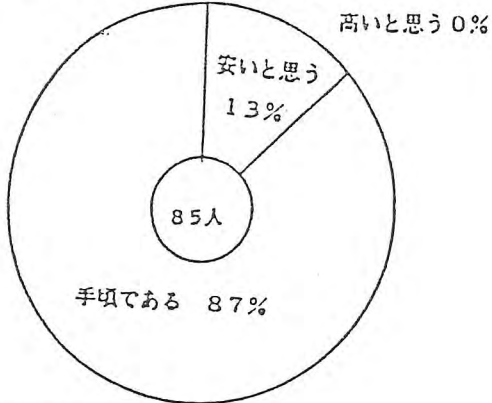
⑤ 司会（参加）人員について



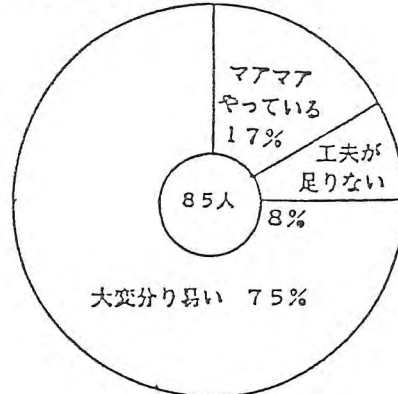
② ツアーの森林浴、森林教室見学について



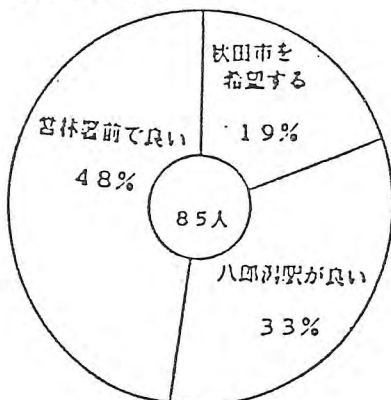
⑥ 参加費（2,000 円）について



③ 営林署員の説明について

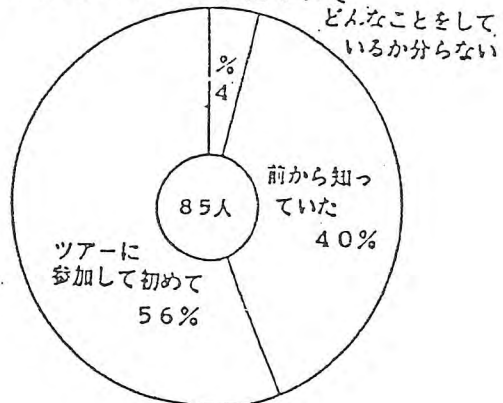


⑦ バスの発着地点について

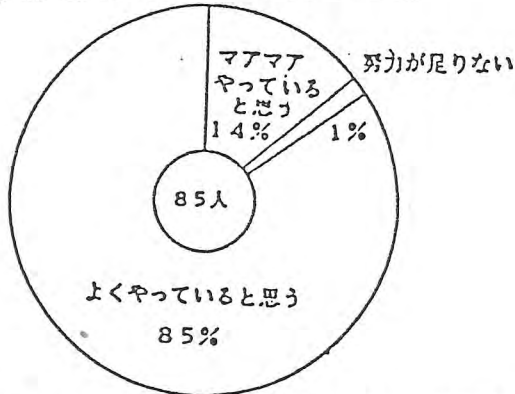


営林署について

① 営林署の行っている仕事について

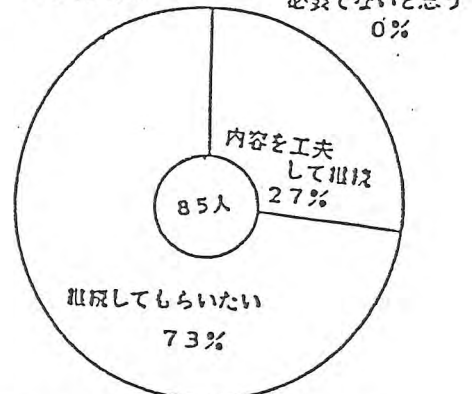


② 営林署のイメージについて

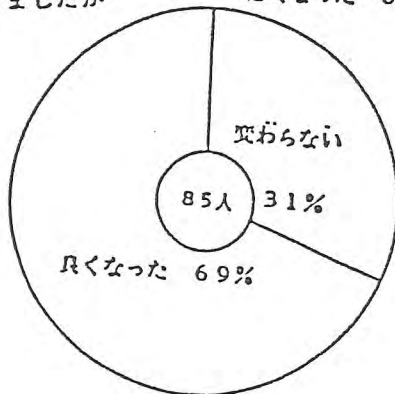


今後について

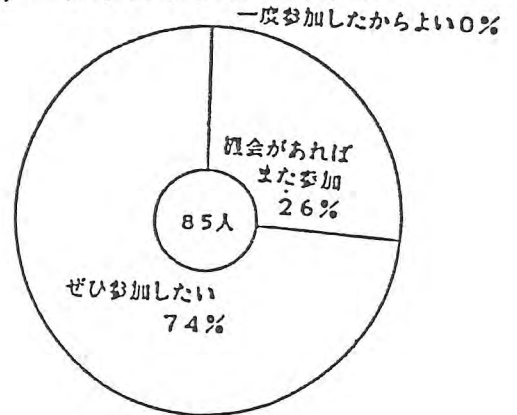
① ツアーの継続について



① ツアーの参加前と後で営林署のイメージが変わりましたか



② ツアーに今後も参加しますか



参加者の意見、要望等について

	要 望 内 容	回答者数
(ア)	一般の人にとって、営林署を改めて理解する機会でもあり、森林の大切さ、現状を知る機会でもあるので、ぜひ継続してほしい。	11人
(イ)	職員の案内等は大変親切で感謝したい。	9人
(ウ)	伐採現場、製材工場の見学は貴重な体験であった。	2人
(エ)	公募については見落としの場合もあるので、ラジオ等でも知らせてほしい。	18人
(オ)	バスの発着は秋田市からお願いしたい	16人
(カ)	コースが平坦地であるので登山を含めて計画してほしい	5人
(キ)	ツアー参加者の名簿を作成してほしい	1人